

国労新小岩保線分会 第22回定期大会開催

人間らしく生き、働ける職場の確立を！

新小岩保線分会は4月1日現在の組合員が17名となりました。そのうちの16名はエルダー社員であり、JR社員は1名です。JR本体では新小岩保技セは0人となり、西船橋保技セでは4名で他はエルダー出向です。

新型コロナ感染拡大で集まる機会が失われる中、感染対策を第一に執行委員会や交流会を開催しましたが、この間に心配された組合員の感染もなく、無事に行事を終えています。

そういった1年間の総括をし、働き続けられる職場を目指しながら運動を展開していく必要がある為、3月20日(日)13時より国労千葉地本会議室において第22回定期大会を開催し、新執行部を確立させました。

「労組不要論」に屈せず皆で頑張ろう！

鈴木副委員長が大会規約により成立したことを宣言し、大会議長には松田さんを選出し、議事進行に入りました。分会を代表し、寺林執行委員長から「コロナ禍の厳しい現状の中で月1回の執行委員会を開催し、その中で感染対策により今回も分会旅行を中止させ、千葉ビール園で『交流会』を決めて開催した。結果、良い評価を得たが、こういった運動を感染対策第一としながら継続させたい」と挨拶。続いて千葉地本加藤委員長より情勢や社員代表選の結果について報告され、労組不要論の中で「国労として不満の声を受け皿としながら労組運動を再生する必要がある」と述べました。千葉工務協永野副議長からは「毎年『退職者おつかれ様会』を開催した。その場で退職された諸先輩方と交流を持つことで工務協の団結を深めあったが、コロナ禍で失われた。組織拡大が喫緊の課題であり若手組合員1人だけ保線職場で頑張らせるわけにはいかない」と挨拶されました。

2021年度執行体制

執行委員長 寺林義人(西船橋保技セ線路科)
執行副委員長 鈴木富智雄(東鉄船橋出張所)
書記長 石井広幸(西船橋保技セ線路科)
執行委員 戸川幸範(西船橋保技セ企安科)
執行委員 江川則雄(ジェーアル東日本物流)
執行委員 松田優一(ジェーアル東日本高架サービス)
執行委員 川島浩志(いすみ鉄道工務課)
執行委員 嶋田福実(西船橋保技セ線路科)
会計監査 中村真澄(ジェーアル東日本高架サービス)

この後、運動方針(案)や20年度の決算報告・21年度の予算(案)の後、討論では、

■JR東日本グループ傘下である警備会社でエルダーに出向して2年が経ったが、客層の悪い人が多く、神経的に参った。

■パートナー会社では夜間作業を1年間100回以上責任者に就いたら1万円が支給。作業従事員は対象じゃない「おかしい」といった声。

■JR本体は若手社員の担当デスクワークが多く、線路科は要員が足りず、線路巡視等で保技セに帰ってきてから超勤が当たり前。

■保安警備室は泊りが多く、40年位経っている休養室の古いベットを新品に返させた等々、保線よりもエルダー出向先の職場問題(特に警備)が以前より多く、今後の課題にしました。

最後は嶋田書記長の「どこの職場も酷い実態である。私たちに関わる課題は山積みされている。不満の声を改善させるためにも執行委員会を続けていこう」と集約し、向こう1年間の運動方針と予算が確立され、寺林執行委員長の「団結頑張ろう！」で閉会となりました。

なお、会計監査は今回規約改正で1名です。

線路巡視

